

# 興津宿

東海道二峠六宿



清見寺仏殿



興津宿を映像で紹介しています！

東海道  
「興津宿」  
古地図と今の興津宿

<https://youtu.be/XvPfl4WBI1Y>



東海道  
「興津宿」  
清見寺の五百羅漢

<https://youtu.be/pgAk0aFFmhY>



東海道を行く  
薩埵峠の東、望嶽亭～  
興津宿見付

<https://youtu.be/W0O00xttawQ>



二峠六宿道旅推進実行委員会



令和2年度文化芸術振興補助金

清見寺五百羅漢



清見寺、1300年前

天武天皇が設置した  
清見関所が始まりである



薩埵峠の西に位置する興津川。  
天下分け目の戦が多くあった場所です

東からの脅威を防御していた関所と鎮護のお堂は清見寺となり、そして門前町が発展しました。清見寺は、足利尊氏、今川義元公、徳川家康公の帰依を受けて繁栄し、朝鮮通信使、琉球使節への接待場所として使われ、駿河国の名刹としてその名を轟かせました。朝鮮通信使の扁額なども残っています





#### 坐漁荘前の清見潟

坐漁荘の庭、同じ場所からの眺めです。清見潟と呼ばれる遠浅の海岸が広がっていました



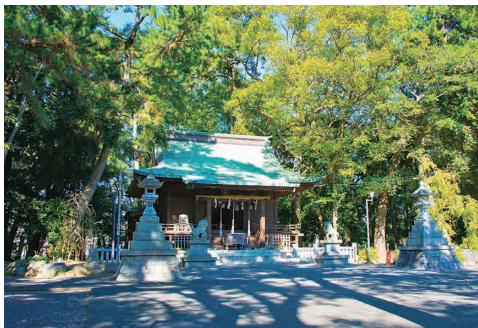
#### 脇本陣一碧楼水口屋跡

脇本陣で宮家も宿泊しており、オリヴァー・スタットラーの著書で海外からの客も訪れていました。現在はギャラリーで資料を公開しています



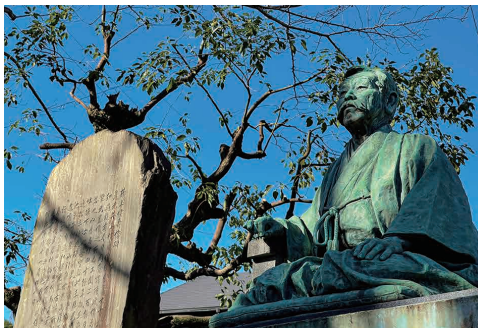
#### 坐漁荘

明治、大正、昭和で2度の総理大臣となった西園寺公望公の終の棲家です。9人の元老のうち4人が興津に別荘を構えていました



#### 宗像神社

海場の守護神である三女神を祭神としていることから「女体の森」と呼ばれ、江尻（清水）湊の船の目印となっていました



#### 井上馨

興津の地域経済に貢献し、風光明媚なこの地を愛した井上馨公の別邸「長者荘」跡には静岡市埋蔵文化センターが建てられています



東海道

興津宿の見どころ

かつて、宮家や多くの政治家、文人墨客が訪れていた名勝地清見潟は重要港湾の施設へと変わりました。清見寺からは正面に三保半島、そして伊豆、左側に富士山、右側に日本平の壮大な眺望が望めます。



#### 清見関跡礎石

東からの脅威を防ぐため天皇勅願により作られた関所とお堂は礎石からみると大きな建物であったと思われます



#### 興津川河口からの薩埵峠越しの富士山

1854年の安政地震で隆起した所にJR東海道線が通り、新幹線、東名高速道路、国道1号バイパスが集中する交通の要衝です



#### 身延道の起点

約80km先の甲府と結ぶ身延道の起点です。江戸時代には身延山久遠寺への身延詣の信者が多く通りました



**興津宿** 清見寺の門前町

興津宿／家数316軒  
(本陣2軒、脇本陣2軒、旅籠34軒)、  
人口1,668人  
出典：1843年東海道宿村大概帳



JR東海道線が  
境内に通る清見寺

